

科 目	週 時 数
現代文B	3 時間

目 標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重して国語力の向上を図る態度を育てる。	
育 っ たい 力	知識 技能	語句の意味、用法を的確に理解し、自身の語彙を豊かに表現に反映させることができる。また、教材の文体、修辞に触れ、他者に主張を正しく伝える表現を磨く。
	思考 判断 表現	構成、要旨などを的確に捉え、その論理性を評価する姿勢を養う。あわせて書き手の意図や人物、情景、心情の描写などを的確に捉える力を育む。また、目的や課題に応じて収集した情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現する。
	主体性 協働性 多様性	読書に親しみ、さまざまな文章に触れることを通して多様な考え方を理解するとともに、他者と意見を交換することで多様な視点に触れ、自身の意見を磨くことができる。

時期	学 習 内 容	ね ら い ・ 目 標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・「文学の未来」 ・「檸檬」 ・「環境問題と孤立した個人」 ・「スペインタイルの家」 ・「鏡の中現代社会」 ・「社会の壊れる時-知性的であるとはどういうことか」 ・『高校漢字必携』3級・準2級 	<ul style="list-style-type: none"> ・評論文から代表的な思想や、筆者独特の考え方に触れ、自身が新たな視点を獲得し自身の視野を広げるとともに、筆者の論に対する自身の論を確立し、他者と意見を交わすことで自身の成長につなげる。 ・文学的文章から、人間の内面にある憂いや鬱屈した思いが文学の中でどのように表現されているかを味わう。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・「舞姫」 ・「トランジット」 ・「他者の声 実在の声」 ・「サッカーにおける『資本主義の精神』」 	<ul style="list-style-type: none"> ・文学的文章から、明治期の青年の自我の目覚めと葛藤を通して、自己の成長の糧とする。 ・評論文を読んで、筆者独特の経験、視点に触れることで自身の視野を広げ、これまでとは異なる視点で社会を見る眼を養う。

授業の形態	一斉授業 ペアワーク グループワーク等
教科書	『精選現代文B』(東京書籍)
副教材	高校漢字必携5級～2級(第一学習社)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	漢字副教材の事前学習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教科書教材の学習の手引について自分の視点で論じられる
	60%	教科書の練習問題の完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科目	週時数
政治・経済	2 時間

目標	現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる、公民としての資質・能力を育成する。	
	知識技能	現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる基本的な概念や理論などについて理解するとともに、情報を適切に調べられる。
	思考判断表現	政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会の課題を理解するとともに、身につけた判断基準を根拠によりよい社会を構想する力や、実現可能性などについて議論することができる。
	主体性協働性多様性	現実社会の諸課題を主体的に理解しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される公民としての自覚を磨くことができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	第1編 現代の政治 第1章 民主政治の基本原則と日本国憲法 第2章 現代の国際政治	<ul style="list-style-type: none"> 個人の尊厳と基本的人権の尊重、対立や協調などに着目して、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務の関係、議会制民主主義、地方自治について、現実社会の諸事象を通じて理解を深める。 民主政治の本質を基に、日本国憲法と現代政治のあり方との関連について多面的・多角的に考察し、表現できる。 国際社会の変遷、人権、国家主権、領土等に関する国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割、わが国の安全保障と防衛、国際貢献について、現実社会の諸事象を通じて理解を深める。
2 学期	第2編 現代の経済 第1章 現代経済のしくみと特質 第2章 国民経済と国際経済 第3編 現代社会の諸課題	<ul style="list-style-type: none"> 経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政の働きとしくみ及び租税などの意義、金融の働きとしくみについて、現実社会の諸事象を通じて理解を深める。 経済活動と福祉の向上との関連について、多面的・多角的に考察し、表現できる。 貿易の現状と意義、為替相場の変動、国民経済と国際収支、国際協調の必要や国際経済機関の役割について、現実社会の諸事象を通じて理解を深める。

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習
教科書	『政治・経済』(数研出版)
副教材	政治・経済資料集(清水書院) 政治・経済演習ノート(数研)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト, 提出物, 授業態度等)による総合評価
備考	ICTの活用, アクティブラーニングを取り入れる

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	『サポートノート政治・経済』 演習問題・発展問題の完全理解
	60%	『サポートノート政治・経済』 確認問題の完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科目	週時数
数学Ⅲ	5 時間

目標	平面上の曲線, 複素数平面, 極限, 微分法および積分法について理解し, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察し表現する能力を培い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用する態度を育てる。	
	知識技能	数学的活動を通して, 平面上の曲線, 複素数平面, 極限, 微分法および積分法における基本的な概念, 原理・法則, 用語・記号などを理解し, 基礎的な知識を身につけている。事象を数学的に考察し, 処理する仕方や推論の技能を身につける。
	思考判断表現	数学的活動を通して, 平面上の曲線, 複素数平面, 極限, 微分法および積分法における数学的な見方や考え方を身につけ, 事象を数学的に捉え表現できる。
	主体性協働性多様性	自ら課題を見だし, 解決するための構想を立て, 考察・処理し, その過程を振り返って得られた結果の意義を考えることができる。自らの考えを数学的に表現し根拠を明らかにし, ICTを活用し, 説明したり, 議論したりすることができる。学習した内容を生活と関連付け, 具体的な事象の考察に活用することができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ○平面上の曲線 ○複素数平面 ○関数と極限 	<ul style="list-style-type: none"> ○2次曲線, 極座標について理解を深める。 ○複素数平面の概念, 極形式, ド・モアブルの定理を学び, 図形への応用や複素数の方程式を解くことができる。 ○分数関数, 無理関数, 合成関数, 逆関数についての性質を理解する。無限数列, 無限級数及びその和, 関数の連続について学ぶ。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ○微分 ○微分の応用 ○積分とその応用 	<ul style="list-style-type: none"> ○微分法の基本的な公式を理解し適切に利用できる。 ○関数の増減に着目し, その変化に応じた処理ができる。 ○積分法の基本的な公式を理解し適切に利用できる。

授業の形態	一斉授業, グループ学習
教科書	『数学Ⅲ Standard』(東書 数Ⅲ316)
副教材	ニューアシスト新編数学Ⅲ(東書)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト・課題の提出物・授業態度等)による総合評価
備考	章ごとに問題演習の時間をとり, 応用力を身につける

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で, 応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え, 仲間の学習に貢献し, 仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教科書のTrainingの完全理解
	60%	教科書の例題・問の完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
数学探究⑥(設定)	2 時間

目 標	既習事項について、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する力を伸ばす。さらに、数学的活動を通して創造性の基礎を培うとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを積極的に活用する態度を育てる。	
育 っ た い 力	知識 技能	高校数学の総復習を通して、その履修内容の理解を深め、知識、技能を確かなものにする。また事象を数学的に考察し、処理する仕方や推論の方法を身につけ、的確に問題を解決する。
	思考 判断 表現	問題演習および課題学習を通して、論理的に考察し表現するなど、数学的な見方や考え方を身につける。さらに、事象を数学的・図形的にとらえ、論理的に考察し、表現するとともに、過程を振り返り多面的・発展的に考える。
	主体性 協働性 多様性	数学的活動を通して、考え方や体系に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを発展的な事象の考察に活用しようとしてすることができる。自ら課題を見だし、解決するための構想を立て、考察・処理し、その過程を振り返って得られた結果の意義を考えることができる。

時期	学 習 内 容	ね ら い ・ 目 標
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ○数と式 ○集合と命題 ○2次関数 ○図形と計量 ○データの分析 ○場合の数と確率 ○図形の性質 ○整数の性質 	<ul style="list-style-type: none"> ○高校数学の履修内容の習熟。 ○定理・公式の理解。 ○論理的思考力および数学的・図形的思考力の育成。
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ○式と証明 ○複素数と方程式 ○図形と方程式 ○三角関数 ○指数関数と対数関数 ○微分法と積分法 ○ベクトル 	<ul style="list-style-type: none"> ○高校数学の履修内容の習熟。 ○定理・公式の理解。 ○論理的思考力および数学的・図形的思考力の育成。

授業の形態	一斉授業, グループ学習
主たる教材	「改訂版 リンク数学演習 I・A+II・B受験編 approach」(数研) 独自教材(プリント)
副教材	ニューアシスト新編数学II+B(東書)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト, 提出物, 授業態度等)による総合評価
備考	解答の説明をさせる等, 言語活動を充実させる

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	「リンク approach」の完全理解し応用できる
	60%	「リンク approach」の完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科目	週時数
物理	3 時間

目標	物理的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。	
	知識技能	物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深めることで、自らで課題を見つけ、考え、見通しをもって主体的かつ意欲的に観察、実験などに取り組む。
	思考判断表現	自然の事物・現象に関する基本的な原理・法則を系統的に理解し、自然を探究する能力と態度を身につけ、他科目の学習成果とも関連させて、自然界の事物・現象を分析的、総合的に考察する能力を育成する。
	主体性協働性多様性	物理的な事物・現象に対して、興味・関心を高め、知的好奇心をもって問題を見出し、主体的に解決しようとする意欲を高める。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	第3編 波(波の性質、音と光) 第4編 電気と磁気 (電流と磁界) 第5編 原子 (電子と光、原子と原子核、物理学が築く未来)	<ul style="list-style-type: none"> 水面波、音、光などの現象を観察、実験などを通して探究し共通する基本的な概念や法則を、日常生活や社会と関連付けて系統的に理解する。 電磁気に関する現象、更には電子、原子及び原子核に関する現象を観察などを通して探究し、電気と磁気に関する基本的な概念や原理・法則を系統的に理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できるようになる。 授業で扱うプリントが終わったら、もう一度全体を振り返り、一歩深い根拠の理解に至る。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> グループ学習により、第1編～第5編の中から、学院大の志望学科に即した分野を深める(「特集」と「探究」) 問題演習(「章末問題」) 	<ul style="list-style-type: none"> 問題演習を通して、物理法則が成り立つ条件や、数学的な処理についての理解を深める。 実験や観察を通して、物理の原理や法則を深く理解するとともに、装置の工夫やデータの扱い方についても理解を深める。

授業の形態	一斉授業
教科書	『物理』(東京書籍)
副教材	自主教材(プリント)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	自主教材(プリント)の内容の理解、発展課題内容の理解
	60%	自主教材(プリント)の内容の理解

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
化学	2 時間

目 標	化学は物質について学習する教科であることを理解し、化学的な事物・現象に関する基本的な原理・法則を理解するとともに、身の回りの事物・現象を化学的に探究する方法を身につける。	
育 っ た い 力	知識 技能	基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を身につけることができる。 化学現象について、学習した知識を基に、定量的かつ定性的に扱うことができる。
	思考 判断 表現	実験結果のデータや表を基にして、化学現象を客観的にとらえることができる。 化学現象について、原子・分子レベルで考え、他者にわかりやすく説明できる。
	主体性 協働性 多様性	目的意識をもって観察、実験を行ない、化学的に探究する能力と態度を身につけることができる。 主体的に課題に取り組むことにより、興味・関心を高めることができる。

時期	学 習 内 容	ね ら い ・ 目 標
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・有機化学(脂肪族化合物) ・有機化学(芳香族化合物) 	<ul style="list-style-type: none"> ・異性体の数を正確に求められるようにする。 ・アルコールの酸化など基本反応を理解する。 ・ベンゼン環を有する芳香族化合物の基礎知識を身につけ、各性質に応じた分類ができる。
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・合成高分子化合物について ・天然高分子化合物について 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に関連する高分子化合物の合成法・性質を理解する。

授業の形態	一斉授業
教科書	『新編化学』(数研出版)
副教材	リードα 化学基礎+化学(東京書籍) サイエンスビュー 化学総合資料(実教出版)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト, 提出物, 授業態度等)による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野 の到達目安	80%	「リードα 化学基礎+化学」の応用問題の完全理解
	60%	「リードα 化学基礎+化学」の基本問題の完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科目	週時数
科学実験(設定)	1 時間

目標	科学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、探究する能力と態度を育てるとともに、自然科学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。大学の授業を取り入れることにより、レポートの書き方や発表する力を育てる。	
	知識技能	自然科学の基本的な概念や原理・法則の理解を深めることで、自らで課題を見つけ、考え、見通しをもって主体的かつ意欲的に観察、実験などに取り組む。
	思考判断表現	自然の事物・現象に関する基本的な原理・法則を系統的に理解し、自然を探究する能力と態度を身につけさせ、他科目の学習成果とも関連させて、自然界の事物・現象を分析的、総合的に考察する能力を育成する。
	主体性協働性多様性	科学的な事物・現象に対して、興味・関心を高め、知的好奇心をもって問題を見出し、主体的に解決しようとする意欲を高める。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> 東北学院大学工学部における学びとの接続を意識し、物理及び化学の実験を実施する。 物理実験では、機械知能工学科、及び電気情報工学科を意識して、力学、電気、波動の実験に加え、ゲルマニウムラジオの制作を通して、電磁気の実験分野についての理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 物理量の測定を通して、装置の工夫やデータの扱い方を深く理解する。実験を協働して行うことで、役割分担の大切さや情報共有の仕方を身につける。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> 仮説・実験計画をたて、自らデータを解析する。 予備知識の蓄積や実験後のレポート作成 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期で学習した事項や手法をもとに、問題を見いだす力・根拠のある予想や仮説を発想する力・解決方法を発想する力・より妥当な考えをつくり出す力の育成を目指す。 仮説・実験計画をたて自らデータを解析する実験などを通して、様々な観察・実験に共通する探究の過程を身につける。

授業の形態	グループワーク(実験)
主たる教材	自主教材(プリント)
副教材	物理(東京書籍), 化学(第一学習社), スクエア最新図説化学(第一学習社)
評価の方法	実験レポート, 実験中の態度による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	実験の意味や手法について正しくレポートまとめた上で、結果を深く考察できる
	60%	実験の意味や手法について正しくレポートまとめられる

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
体育	3 時間

目 標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動の技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。	
育 っ て たい 力	知識技能	社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基本的な事項を理解し、知識を身につける。また、自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、運動の技能を高める。
	思考判断表現	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫する。
	主体性協働性多様性	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任などの態度を身につけるとともに、健康・安全に留意して自ら計画的に運動をしようとする。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	体づくり運動 *組体操、運動会の練習 体育理論 テニス バレーボール ソフトボール	<ul style="list-style-type: none"> • 運動を通して自分や仲間のからだや心の状態に気づき、からだの調子を整えたり、仲間と楽しく交流する。 • 様々な体の使い方を学び、各自で種目を選択し互いに協力・補助し、連続技に挑戦する。 • ネット型では役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する。 • ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作、連携した守備などによって攻防を展開する。 • 安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。
2 学期	体育理論 バスケットボール サッカー 卓球 バドミントン	<ul style="list-style-type: none"> • 運動技術と運動技能の違いを知り、それぞれの運動種目に応じた運動技術について理解する。 • ネット型では役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する。 • ゴール型では状況に応じたボール操作と空間を埋める動きによって空間への侵入などから攻防を展開する。 • 安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。

授業の形態	一斉授業 グループ学習
教科書	『高等学校保健体育』(第一学習社)
副教材	ステップアップ高校スポーツ2000(大修館)
評価の方法	実技試験と定期試験(種目の歴史とルール)による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	実技では規定の技能を正確に行う。筆記試験はルールや歴史を理解する。
	②実技テスト	競技の特性を理解し、指示されたポイントを踏まえて取り組み満点を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	規定の服装で授業を受けること
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

科 目	週 時 数
コミュニケーション英語Ⅲ	4 時間

目 標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を実際の場面で運用できるようにする。 全過程を通じて、大学が求める英語運用能力を伸ばす。	
育 っ たい 力	知識 技能	まとまりのある説明文を理解したり、実用的な文章から情報を得て、整理することができる。 日常生活についてのまとまりのある内容をよく理解することができる。 専門的内容を含む話や会話を聞いて、主題と詳細情報を区別して理解することができる。
	思考 判断 表現	書き手の意図を理解して、自分の意見と比較しながら批判的に読むことができる。 日常生活の話題について、構成を意識して文章を書くことができる。 自分の意見や感想を論理的に整理し、説得力のある文章を書くことができる。
	主体性 協働性 多様性	日常生活の出来事を説明したり、用件を伝えたりすることを、簡潔かつ適切に行うことができる。 専門的内容を含む話題について、新たな質問を思いつくなどして話題を発展させることができる。 話し合いの場ではリーダーとして意見の集約をすることができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	English Communication III ・L1 Emperor Penguins ・L2 Caffeine ・L3 Blood Is Blood ・L4 Biomimetics ・L5 Communication without Words ・L6 Christmas Truce	以下のテーマについて、円滑なコミュニケーション活動ができるようになる。 〈生命・自然〉 〈職業・生活〉 〈国際社会〉 〈敬愛・協力〉
2 学期	・L7 Political Correctness ・L8 Global Water Crisis ・L9 Animal Math ・L10 The Poorest President in the World ・既習事項の確認と発展的演習	以下のテーマについて、円滑なコミュニケーション活動ができるようになる。 〈敬愛・協力〉 〈生命・自然〉 〈国際社会〉 演習を通し、総合的な力を磨く。

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習
教科書	『Landmark fit English Communication III』(啓林館)
副教材	Landmark fit English Communication III 予習ノート(啓林館) Vision Quest総合英語(啓林館) TOEIC Bridge Listening & Reading 公式ワークブック(国際ビジネスコミュニケーション協会)
評価の方法	定期試験・実技試験・小テスト・提出物の他、授業への意欲・姿勢を総合的に評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	予習ノートの全ページの問題と答え、教科書の課末問題や小テスト問題を全て理解している
	60%	予習ノートの全ページの問題と答えを理解している

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
英語表現Ⅱ	2 時間

目 標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。	
育 っ たい 力	知識 技能	簡単な説明文を理解したり、図や表から情報を得ることができる。 日常生活の話題や簡単な説明・指示を理解することができる。 短い内容や会話を聞いて、話者の意図や内容の状況を理解できる。
	思考 判断 表現	1つの段落内の要点や内容のつながりを理解できる。 興味・関心のあることについて簡単な文章を書くことができる。 自分の意見や感想を整理し、文章構成を意識して書くことができる。
	主体性 協働性 多様性	日常生活で簡単な用を足したり、興味のあることについて考えを述べるができる。 自分のスピーチに対する質問に英語で答えることができる。

時期	学 習 内 容	ね ら い ・ 目 標
1 学 期	Vision Quest English Expression II Part 3 ・プレゼンテーション ・ディスカッション ・ディベート	以下についての基本ルールを理解し、活用できるようになる。 ・プレゼンテーション ・ディスカッション ・ディベート
2 学 期	Vision Quest English Expression II ・Part 1 ～ Part 3	演習を通し、総合的な力を磨く。 ・既習事項の確認と発展的演習を行う。 ・様々なテーマについて、自身の考えをまとめたり、論理的に表現できるようになる。

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習
教科書	『Vision Quest English Expression II』(啓林館)
副教材	Vision Quest English Expression II WORKBOOK(啓林館) Vision Quest 総合英語 2nd Edition(啓林館) スランブル英文法・語法4th Edition(旺文社) トランスファー英語総合問題演習B(桐原書店)
評価の方法	定期試験・実技試験・小テスト・提出物の他、授業への意欲・姿勢を総合的に評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教科書のExercises・WORKBOOKのPractice問題の完全理解
	60%	教科書のExercises問題をすべて解くことができる

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
聖書(設定)	1 時間

目 標	人類の遺産である聖書の基本的知識及び価値観を学び、グローバル社会で公共の精神に生きる力を育てる。	
	知識 技能	歴史的、社会的背景を踏まえて本文を正しく理解する。 2000年の歴史を経ての今日的意義を探究する。
	思考 判断 表現	自分も含めた様々な人々から社会が形成されていることを知り、いかに共生するかを考える。 神の前で人間は有限であるが、同時に有意味である自己肯定感を促す。
	主体性 協働性 多様性	異なった考えを積極的に捉え、これまでの自分の価値観と対比し生きる糧とする。 仲間と聖書を読み合うことで、全体の共同性を確認する。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史性、普遍性、倫理性 ・創立の経緯 ・3L精神 ・建学の精神 ・新約聖書概論 ・日本の宗教とキリスト教 ・主の祈り ① ・主の祈り ② 	<ul style="list-style-type: none"> ・聖書を学ぶ、必要性を知る。 ・伝統の中に多くの人々の犠牲と奉仕があることを知る。 ・3校祖と3L精神を学び、学院生としての自覚を促す。 ・教会の礼拝と、学校の礼拝の違いを知る。 ・イエス・キリストの生涯と、新約聖書の概観を知る。 ・無意識で取り組んでいた日本の「宗教」を理解する。 ・本来あるべき、神との関係性について知る。 ・本来あるべき、隣人との関係性について知る。
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・新約聖書と旧約聖書の関連 ・旧約聖書概論 ・十戒 ① ・十戒 ② ・教会暦 	<ul style="list-style-type: none"> ・時代の違い、ユダヤ教徒の関連を知る。 ・古代イスラエル史と共に、その豊かな知恵を知る。 ・本来あるべき神との関係性について知る。 ・本来あるべき隣人との関係性を知る。 ・一年を通じてキリストの生涯を意識しつつ生きる。

授業の形態	一斉授業
主たる教材	聖書
副教材	なし
評価の方法	定期試験、提出物、小テストによる総合評価
備考	特になし

到達 目 標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

科 目	週 時 数
3L希望学	1 時間

目 標	ESDとキャリア学習を通して、主体的、創造的、協働的に課題に取り組む力を育み、加えて未来を展望して、自らの使命を考える。	
育 っ て たい 力	知識 技能	世界にある様々な課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの解決につながる新たな価値観、行動を生み出すこと、それによって持続可能な社会の創り手となることができるように教科学習や探究活動を通して得た知識を組み合わせることができる力を養う。
	思考 判断 表現	クラスやグループごとに仮説を立案し、その検証のために調査し、討議し、まとめ、発表し、行動する学習活動を通して、探究する力を養う。
	主体性 協働性 多様性	誰も置き去りにしない社会を作るためには、何が必要か、どうしたらよいか、自分に何ができるかを級友たちと協働的・探究的に学ぶことを通して、社会の中での自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現していく力を養う。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	「課題研究」	「SDGs」の達成状況や高校2年時までの「3L希望学」の学習成果、世界情勢などを踏まえて、今後継続して向き合う社会課題を明確にし、その内容を状況を会得した探究のプロセスを用いて明らかにしていく。さらに、その内容を進学に際して明確に表現できる形にまとめる。加えて、課題意識を級友と協働して高めていく。
	「進路研究」	オープンキャンパスなどの研究者や学生の方との交流の機会を通して、自らの興味関心、向き合いたい社会課題に照らしてふさわしい学問分野を見定め、その学問分野を修めるのにふさわしい進学先を決定する。また、その思いや経緯を志望理由書に反映させ、2年時に作成した内容を磨く。
2 学 期	「課題研究」	「SDGs」の達成状況や高校2年時までの「3L希望学」の学習成果、世界情勢などを踏まえて、今後継続して向き合う社会課題を明確にし、その内容を状況を会得した探究のプロセスを用いて明らかにしていく。さらに、その内容を進学に際して明確に表現できる形にまとめる。加えて、課題意識を級友と協働して高めていく。
	「進路研究」	オープンキャンパスなどの研究者や学生の方との交流の機会を通して、自らの興味関心、向き合いたい社会課題に照らしてふさわしい学問分野を見定め、その学問分野を修めるのにふさわしい進学先を決定する。また、その思いや経緯を志望理由書に反映させ、2年時に作成した内容を磨く。

授業の形態	一斉授業 講演 グループ学習 ワークショップ 個人の探究活動
教科書	なし
副教材	なし
評価の方法	学習記録、報告・作品(レポート、発表など)の内容や提出状況、ルーブリックによる自己評価・相互評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	なし
	②小テスト	なし
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	自分の興味関心と社会のあり方の関係について考え続ける態度を理想とする

科 目	週 時 数
プレカレッジ	PC① 2 PC② 1 計 3 時間

目 標	東北学院大学で開講されている「地域の課題」の学びに繋がる「思考プロセス」を具体的なワークを通して深める。加えて、地域の課題と向き合うことを通して社会の未来を描く力を育み、自らが社会課題の課題の解決のために何ができるかについて考え、自らの進路選択に繋げる。 現代の情報基盤社会についての基礎的な知識の習得を通して、情報化に適応し、積極的に参画するための能力を育成する。また、実際に情報を活用するうえで必要な情報収集、判断の能力を養う。							
育 て たい 力	<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">知識 技能</td> <td>自分自身の興味関心と社会の課題の結びつきを明確に理解することができる。 社会への関心と情報感度を向上させることができる。 情報および情報基盤社会についての基礎的な知識と、必須となる情報機器の使用方法を理解している。また、現在の情報環境を前提とした情報モラルを身につけている。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">思考 判断 表現</td> <td>論理的な証拠に基づいて主張を構成することができる。 仮説を立て、手続きに従ってそれを検証することができる。 情報機器やネットワーク環境の特性を踏まえたうえで論理的に情報を取捨選択し、情報モラルの観点からも適切に情報を受発信することができる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">主体性 協働性 多様性</td> <td>論理的な証拠に基づいて主張を構成することができる。 仮説を立て、手続きに従ってそれを検証することができる。 情報基盤社会の成員としての自覚をもち、他者を尊重しながらそれに積極的に参画する態度を身につけている。</td> </tr> </table>	知識 技能	自分自身の興味関心と社会の課題の結びつきを明確に理解することができる。 社会への関心と情報感度を向上させることができる。 情報および情報基盤社会についての基礎的な知識と、必須となる情報機器の使用方法を理解している。また、現在の情報環境を前提とした情報モラルを身につけている。	思考 判断 表現	論理的な証拠に基づいて主張を構成することができる。 仮説を立て、手続きに従ってそれを検証することができる。 情報機器やネットワーク環境の特性を踏まえたうえで論理的に情報を取捨選択し、情報モラルの観点からも適切に情報を受発信することができる。	主体性 協働性 多様性	論理的な証拠に基づいて主張を構成することができる。 仮説を立て、手続きに従ってそれを検証することができる。 情報基盤社会の成員としての自覚をもち、他者を尊重しながらそれに積極的に参画する態度を身につけている。	
知識 技能	自分自身の興味関心と社会の課題の結びつきを明確に理解することができる。 社会への関心と情報感度を向上させることができる。 情報および情報基盤社会についての基礎的な知識と、必須となる情報機器の使用方法を理解している。また、現在の情報環境を前提とした情報モラルを身につけている。							
思考 判断 表現	論理的な証拠に基づいて主張を構成することができる。 仮説を立て、手続きに従ってそれを検証することができる。 情報機器やネットワーク環境の特性を踏まえたうえで論理的に情報を取捨選択し、情報モラルの観点からも適切に情報を受発信することができる。							
主体性 協働性 多様性	論理的な証拠に基づいて主張を構成することができる。 仮説を立て、手続きに従ってそれを検証することができる。 情報基盤社会の成員としての自覚をもち、他者を尊重しながらそれに積極的に参画する態度を身につけている。							

時期	学 習 内 容	ね ら い ・ 目 標
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> 「地域の課題」を見つける 「課題解決の方法」を見つけるために情報収集を行う 「課題解決の方法」を検討し、整理・分析する 「自分なりの最適解」をまとめ、発表する <ul style="list-style-type: none"> 情報と情報基盤社会について 情報価値の変遷 情報システムについて 知的財産とそれを守るしくみについて 情報機器の構造 コンピュータの情報処理 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の現状把握とその原因に対する疑問を持つ姿勢を育てる 現状分析とその原因究明の姿勢と手法を具体的な記事の深掘りを通して体験的に学ぶ 社会の将来像を描き、自分自身が捉えた社会の問題を課題化する 自分自身を課題解決の当事者と認識し自らが関与できる範囲を絞り込む 自らが主体的に取り組むことの意味と意欲を他者に正確に伝えるための方法を実践を通して理解する 自分自身の社会への参画可能性について考える <ul style="list-style-type: none"> 現在の情報通信環境がどのように形成されたのかを理解する
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> 未来像(解決したい課題)と自らの進路の結びつきを明確にする 自らの希望進路を学問分野とを結びつける 東北学院大学の希望学部・学科のアドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーと希望進路の結びつきを明確にする 希望進路の妥当性について志望理由書に筋道を立てて表現する プレカレッジでの探究型の学びの過程を文書に分かりやすく表現する 大学での学びを明確にイメージし、自らの言葉で発信する <ul style="list-style-type: none"> 情報通信ネットワークについての基礎知識 情報通信ネットワークの発展の経緯 情報通信ネットワークの構造 情報セキュリティについて セキュリティ対策と個人情報について 	<ul style="list-style-type: none"> 社会との関係性を理解するための思考を磨く 社会の将来像を描き、自分自身が捉えた社会の問題を課題化し表現する 自らが主体的に取り組むことの意味と意欲を他者に正確に伝える方法を理解し実践する 希望進路と学びたい学問分野の結びつきを明確にする 東北学院大学の希望学部・学科と希望進路の結びつきの整合性を確認する 東北学院大学の希望学部・学科の志望理由を文書で説得的に表現する プレカレッジでの探究型の学びの内容を文書で明確に表現する <ul style="list-style-type: none"> 情報通信ネットワークを適切に活用する能力を身につける 情報基盤社会における危機管理能力と情報モラルを習得する

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習 PC一人1台環境による講義形式の授業
主たる教材	自主教材 コンピュータ概論 情報システム入門
副教材	新聞 探究ナビBasic 動画(番組)
評価の方法	レポート ミニツペーパー ポートフォリオ 定期試験と実習課題による
備考	ボランティアに関する情報を発信し体験のサポートをする

到達目標	①定期試験 範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト ミニツペーパーを充てる 演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物 レポート ミニツペーパー ポートフォリオ 期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備 新聞に目を通し動画を視聴するなどして地域の状況を知ろうとする 必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度 社会ならびに地域の課題と自らの進路をしっかりと結びつける 聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む